

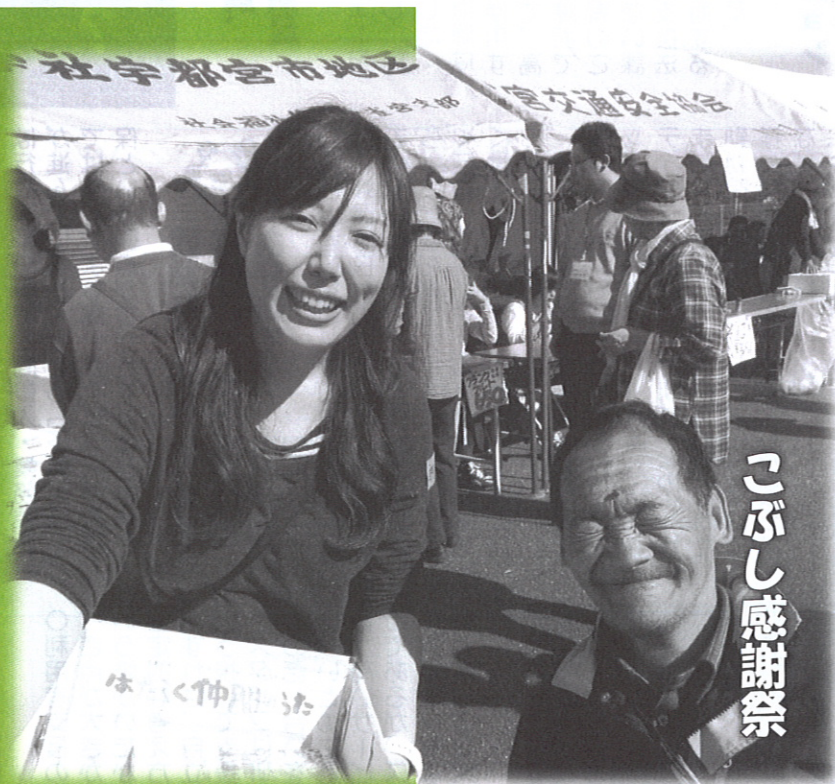


Hataraku(work)
Kurasu(live)
Sasaeru(support)
That is to say
Kobushi Network

We are social workers!

グッとくるよ

こぶしだより



こぶし感謝祭

特集

海外視察研修報告

～みんなの期待を背に

海外研修で得た専門職としての誇り～

No. 349

みんなでつくり 地域をつむぐ



後援会 News

忙しく、大変なことも多いが、
何より楽しい

こぶしの会は、共同作業所づくりの当初から後援会をはじめ、広域な地域住民によって支えられながら障がい者の権利保障を目指して、利用者、職員、家族との相互の連携を財産にしながら今日に至っている

「道の駅はが」で毎月第四日曜日に行われている骨董市には手作りのいなりずしなどをもって毎回出店し、売り上げを荒稼ぎしているそうです。この収益はもちろんけやき作業所に寄付されています。十月二十三日にお邪魔させていただき後援会会員である関本さんにお話を伺ったところ、
「仲間と一緒に活動するのが楽しみ。これで、自分の健康と生活の両面を支えているんだよ。」
と元気におっしゃってくださいました。
会員さんが元気！活動も元氣！けやきも元氣！を実感しました。

取材 小野

【企画】社会福祉法人こぶしの会
【編集】こぶしだより編集委員会
【責任者】藤田勝春
【編集責任者】高橋温美
【住所】〒三三一九〇二 宇都宮市柳田町一四〇一 番地

【発行所】〒一五七〇七三 東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円

後援会員になりませんか？

一緒に後援会の活動を支え、共に楽しみを分かち合いながら、障害のある仲間の豊かな生活づくりへの力になりませんか。

年会費…個人一口 1,000 円
団体一口 5,000 円

●お問い合わせ・窓口●

社会福祉法人こぶしの会

第2 けやき作業所

担当：菊地・小幡

★宇都宮市柳田町 1401

☎028-677-0495 FAX680-5938

お気軽にお問い合わせください

売り切れゴメンの早い者勝ち



骨董市定番のとん汁&おいなりさん

私の生きがい

だよ(笑)

後援会という名のもとに、仲間が集い、楽しみを分かちあえる場
けやき作業所等後援会

事業所一覧

■法人本部

☎321-0902 宇都宮市柳田町1401

TEL 028(613)3707 FAX 028(666)6128

■日中活動支援

- こぶし作業所 ●けやき作業所 ●第2けやき作業所
- セルフ・みらい ●県東ライフサポートセンター真岡
- 上三川ふれあいの家ひまわり

■相談支援事業

- 障がい者生活支援センターこぶし
- 芳賀地区障害児者相談支援センター
- 上三川障がい児・者生活相談支援センター
- 県東圏障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」
- 地域活動支援センター「ほっとCHA」
- 上三川ふれあいの家ひまわり 地域活動支援センター

～編集後記～

○…日ごとに冬の気配が深まってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。先日、サッカーの試合を行ってきました。久しぶりに体を動かし、とても清々しい気持ちになることができました。皆様も寒さに負けないで、身体を動かしてみたいかがでしょうか…(小野)
○…11月のことです。家に向かって車を走らせていたところ、目の前に黒い物体が、近づいてみるとイノシシが!? 間髪を容れず、身体を動かして回避しました。イノシシに遭遇している私の住まいはどこでしょう(笑)(菊地)
○…最近カフェ巡りにはまっています。オススメのカフェがあったらぜひ教えてください。篠崎のオススメカフェは日光珈琲です。(篠崎)
○…試みだらけのこぶしだより。表紙をまたまたリニューアルしてしまいました。統一感が無いかもしれませんがお許しを。ちーむこぶしだより2人で奮闘中！体育館が寒い。(牧岡)
○…少し前の話だが、ショックなできごと。愛車のガラスが何者かに割られてしまい、警察のお世話に。人生初の現場検証立会い、事情聴取…。犯人は未だつかまらず…。車を運転する方、こういうことも起こるので気をつけてください。(松本)

○スウェーデンのデイリーアクティビティセンターや自閉症児の生活施設における個別プランは、以下のようなブ



**個々の支援を支える
大切なのは職員教育**

○利用者の支援の指針になるものは、支援プラン(個別支援計画)であるが、このプラン作成のプロセスに大きな違いがあった。印象としては、スウェーデンは「緻密」、デンマークは「ゆるやか」であった。

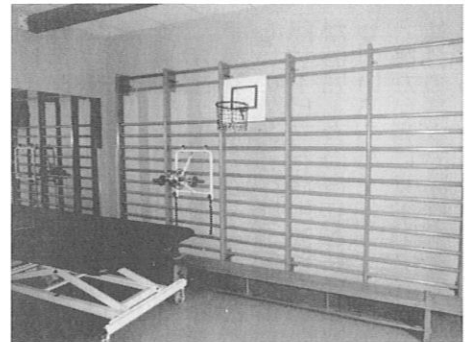


**支援計画
緻密とゆるやか**

**スウェーデンとデンマークでも違いが…
さて、どんな違いがあるのかな?**

ロセスを経て実施される。デイリーアクティビティセンターでは、直接支援に当たるスタッフが計画を作る。他のセンターでは、OT(作業療法士)がプラン作成をすることもあるとのこと。スタッフが作ることによって、利用者の支援方法に直結したプラン作りとなる。このプランを基本として、支援の工夫がなされるのである。

一例として支援スタッフ自ら利用者の食事の仕方を日常から分析し、食べやすいように食器を改良・製作する。「この食器などは、OTやPT(理学療法士)が作っているのですか?」と質問したところ、「スタッフが作っています」との答えであった。柔軟かつ即時に対応しているのである。



リハビリ施設(スウェーデン)
「自立」の視点が一貫。からだの機能を改善するに留まらない。感覚に訴える工夫や、日常生活を豊かにするための設備が整っていた。

支援の過程で、「障がい」を認識してもらったのだが、自分で、ハンディと認めない方も多いようである。この施設の支援スタッフは、ソーシャルワーカー、ペダゴジスタ、ソーシャルワーカー、社会福祉アシスタントで構成されるが、医療機関とも連携をとり、二四時間の連絡支援体制をとっている。

利用者は市のアパート等でケアを受けながら暮らすが、地域生活への移行にあたっては、暴力や器物破壊といったトラブルを起こし、その都度、スタッフが傾聴しながら支援を行なうのだ。プランどおりには物事が運ばないのである。

この施設では、「障がいを自分で認識すること」「依存度のない自立精神を養成すること」を目的としているが、受け入れている利用者は、アルコール障がい・統合失調症のある利用者に加え、難民としてデンマークに移住した、戦争による統合失調症や機能障害のある方もいる。

青年期の障がい者施設では、「プランを立てられない」ということがあった。支援過程において予測のつかない事態が生じるのである。

○一方、デンマークではどうか。支援プランについては、スウェーデンほどは厳密ではない印象がある。むしろ、計画を立てても、すぐに状況が変わってしまう、迅速な対応が求められるようだ。

**社会背景からの課題
計画変更多くても
専門分野間連携に活路**



**より良く暮らす
ディスカッション**

○「利用者自治会」の活発さにも刺激を受けた。ストックホルムのアクティビティセンターでは、利用者の要求に応じた自治会活動が行われていた。スタッフも同席し、議会のように激しくディスカッションをしているとのこと。「栄養価の高い食事の提供について」「どんなパーティーを開くか」といった内容の議論を行なっている。当事者(利用者)による施設改善や評価の活発さも感じた。



作成した計画は、本人・家族にももちろんのこと、後見人にも説明を行ない、ディスカッションする。スウェーデンでは、後見人の利用が定着しており、本人の自立支援を支える上で、大きなポイントになっている。

自閉症児センターでは、プランの見直し、八週間に一回という短いスパンで行なわれている。日本の個別支援計画にも「いつ・どこで、何を・だれが」という項目は盛り込まれているが、この施設のプランは、達成度を数値化しどこまでできたかが数字で表される。これをもとに会議においてディスカッションする。

このような支援を支えるのは、スタッフの教育である。スウェーデンでは、民間施設と公立施設の「質」の競争が激しく、公の施設が民間委託されても、支援の質が低下したと評価されれば再度公立の運営に戻るという厳しい側面もある。それ故、スタッフの教育・支援方法の質の担保は、施設にとっても死活問題なのである。



**社会背景からの課題
計画変更多くても
専門分野間連携に活路**

高い税金には不満、でも社会保障で満足!! ノーマライゼーション思想発祥の国

スウェーデン・デンマーク

これまでいかに自分が狭い視野で仕事を
してきたかを実感

どう変われば障がい者の明日はひらけるか!?

視察研修

報告

私にとって初めての海外研修、それも一度は実際に見聞したかった北欧を訪れるチャンスがやってきた。九月一七日から十月一日まで「民間社会福祉施設等職員海外研修・調査」(社会福祉振興・試験センター主催)に参加させていただいた。総数一五名のスウェーデン・デンマークの福祉施設・行政機関等の調査及び視察である。

**なんでこんなに
日本と違うの?**



**高い税金には不満、
でも社会保障で満足**

○行政施策では、日本と、スウェーデン・デンマークのそれとを比較し、施策そのものの土俵の違いを実感した。両国ともに、福祉サービスの財源は税金が基本である。福祉目的で使用する税金が基本として、高い税金に不満はあっても社会保障面で満足しているという両行政担当者のことばが印象的であった。合意のない課税に対する不信感や障害者自立支援法における利用者負担の問題に直面する日本と比較し、隔世の感があった。

○両国ともノーマライゼーション思想の発祥の地であり、「障がいのある人も一般社会で暮らす」基盤が確立していることを体感できた。スウェーデンで



**ノーマライゼーション
一般社会で暮らす**

○障がい者福祉施設で印象的だったのは、職員は日々の観察力、利用者の手の動かし方や、どう道具を改善したらよいかを創意工夫している様子がよく伝わったが、その職員の働き方はあくせせず、「間」「ゆとり」を感じたことである。

スタッフは、様々な仕掛けをどんな時間で作成しているのだろうか。スタッフの打ち合わせは「十六時からミーティングを行なっています」とのこと。また、残業もしていない。凝縮された勤務時間で、どのように議論を重ねて様々な仕掛けを作っているのだろうか。なぜ、日本の福祉現場は忙しいのか、余裕がないのだろうか。

両国の支援スタッフは、支援方法の違いはあるとしても、大変元気で、専門職としての誇りを感じた。日本のような福祉職の離職率の高さはない。「この仕事の生きがいは何?」との質問に対し、「利用者との喜びが共感できるこ



**残業ありません、でも
専門職としての誇り
あります**



絵カードスケジュール
トーンゴーデン自閉症センター(スウェーデン)
自閉症向けの4名の生活施設
民間施設運営になリスタッフの教育に力を注ぎ、独自色を打ち出している



**固定観念に縛られないで、どうしたらよい
か考えます**

○利用者支援の姿勢についても、学びべき点が多かった。「この人は、こういう障がいだから……である」という固定的な考え方はなく、「どこを、どうすれば、自立生活ができるのか」という視点で支援を行っていた。スタッフは研究熱心であり、利用者との話し合いを欠かさない。研修機会も多いとのことである。スタッフの教育が高いサービスをつくるという考え方であるが、スタッフの専門職としての誇りと良質な支援を維持する施設運営の厳しさを実感した。

セルフ・みらい

東岡 歩

と「という答えが返ってきた。自分も、どうしたらもっと堂々と誇りを持てるのだろうか。」

スタッフは高度な相談支援技術に加え、連携力も求められている。デンマークでは、施設支援においても異業種のスタッフが利用者を支えている。デンマークの職業教育では、ヘルパー・指導的立場のアシスタント、専門分野の支援を行なう「ペダゴアシスタント」の養成過程があるが、このような立場の職種が施設福祉の現場に入ること、自分の障がいの認識につながり、支援向上につながっていることは興味深い。

スウェーデンや日本に比べ、デンマークは、難民の受け入れもあり、社会背景や地域での生活において様々な課題が残されていることを知った。

メモ用紙を製品化!



アストラカン・ダズリグ・フェルクサメット
(デイリー・アクティビティセンター・スウェーデン)
利用者 40名にスタッフ 15名
所得保障(工賃アップ)よりは
生きがいややりがいに重きを置いた支援。

研修先二か国の 行政施策のまとめ

スウェーデン

社会の中で
学び暮らし働き楽しむ

第二次大戦後の「施設収容」から一九七〇年代から八〇年代にかけて「施設解体」「地域福祉サービスの拡充」に政策を転換した。

社会の中で「学び・暮らし・働き・楽しむ」システムづくりが、一九九四年の「LSS法」(福祉サービス法)によって強化された。

LSS法では、重度の機能障がいのある方が、普通の生活が送れるようにすることが大きな骨子となっている。福祉政策の目標は、障がいの教育や労働、生活・文化に対するニーズについて、個人的かつ総合的に自立生活を支えることであり、障がいのない方とともに社会生活ができるような社会環境の整備である。それを自治体の責任で行うというスタンスである。

団地の中に障がい者用住宅を整備することは、そこに住む議員の義務であるという具合である。

ノーマライゼーション
サービスの充実と徹底

幼児期・学齢期から、普通の人を育てる

たくさん学びました
つづいての会
よう生かしましょう

今回の研修で得られたものは膨大であるが、それを持ち帰って職場の実践にどう活かすのかが現在の自分の課題である。



①自分の支援を見直す
支援力を養い障がい者の
願いを現実に

○両国の高い支援水準は、スタッフの日々の支援の積み重ねの結果だといふあたりまえのことに衝撃を受けた。施設職員の姿勢に見習うことが大変大きかった。スウェーデンのデイリー・アクティビティセンターでの、安価なものを活用して設備を工夫していることや、時間をおかず設備を改善する即応性には刺激を受けた。利用者に関心を持ち、支援にあたることの基本をあらためて学んだ。

○利用者の積極性・活発さも今までの自分の仕事を振り返らせた。必要な支援を受けながら、自分で生活することがあたりまえという社会全体のありかたが、その土台になっていることはまちがいないが、デンマークの利用者が「話したくないが、夢はたくさんある!」と話しているのを聞いて、こぶしの利用者はどんな夢を持っているのか、夢を持つような支援は自分にはできないと感じた。また、「もうすぐ私は結婚します」という利用者の話は、自立して暮らすデンマークの障がい者と自分の身近にいる利用者の姿が重なり、その違いにつらくなった。



アク・センター・イェゴ
(アクティビティセンター・デンマーク)
活動グループが地域に出て、絵画を画廊に出展したり、音楽活動を行ったりと、地域に出る活動が活発



②法人への提案
ゆたかに暮らせる
しくみ作りが大切

○「生活支援システム」の充実化
法人は、今後、居宅介護事業所の立ち上げを計画しているが、その内容の検討が必要である。スウェーデンやデンマークでは、「自立」するうえで不足するところに支援の手を入れる考えである。利用者の自立度をあげるため

受ける権利が保障され、学校には専門のアシスタントが配置される。普通学級に通うのが困難な障がいの重い人に対しては、普通学校の敷地内に特別の支援を行う場を設ける。

また、親自身が終日、障がいのある子をサポートすることはとてもめずらしいのである。親の就労率が高く、専門サービスを活用することにより、障がい児・者の自立と親の負担軽減を図っているのだ。

障がい者にサービスを行うことは、社会の基本であり、とても重要なことであるというのがスウェーデンの考え方である。

例えば日々の生活においてパーソナルアシスタント(ヘルパー)で不足する場合は、コンタクトパーソン(映画やオペラなどを見に行きたいときの支援をする人)を使うことができる。もしできない場合には訴えることができる。

デンマーク

ゆりかごから墓場まで
デンマークモデルとは

「デンマークモデル」といわれる福祉システムは、生まれてから死ぬまで、すべての基本となる社会保障が税金でまかなわれている。国民は、税金の高さに苦情をいうものの、税金に対する安心感も待っている。

一九五九年に、社会省行政官バンク・ミケルセンによって「ノーマライゼーション」の考え方が提唱された。一九七〇年代以降、社会情勢の変化

に何ができるのか?いま、日本では、障害者自立支援法に変わる法律として「障がい者総合福祉法」の設立に向けた議論が行なわれているが、「パーソナル・アシスト制度」の骨子も盛り込まれている。利用者が地域で豊かに暮らせるサポート体制に活かしたい。加えて、現在の看護師の配置を見直し、訪問看護ステーションの開設につなげるといった事業展開も考えられるのではない。

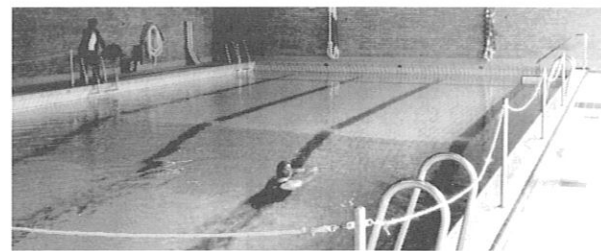
○相談支援事業の体制・機能強化

デンマークで視察したような、スポーツ活動の振興や地域へのサービス周知を通して利用者の生活を豊かにするようなコーディネートを行うソーシャルワーカーの話や、若者が実社会に出て行くためのサポートや集団づくりに取り組む職員の姿に触れて、相談支援業務の守備範囲の広さ、豊かな自立生活を後押しするシステムが求められると感じた。

○「自分の仕事を自分で選ぶ」ための場づくり

デイ・アクティビティ・センターと一般市場へ送り出す場所「サムハル社」の違いを見て、様々な障がいのあるメンバーが集団を構成することによって生まれる「たすけあい」「協力」の場面を活かしつつ、利用者自身もあくせとせず、「自分の仕事を自分で選ぶ」ことがあってもよいのではないかと考えた(地域活動支援センターの充実等)。

一般就労、高い工賃を生み出す作業所を本格的に目指す実践と同時に、障がいの重くない利用者であっても「ゆとりある活動」ができる居場所があるという良き良きではないだろうか。そのため



リハビリ施設(デンマーク)
ロッククライミングや音楽スタジオ、その他プールもそろっていた。リハビリを支えるのは、両国とも、スタッフの多さと職種の多さであり、OT・PT、ナース(看護師・准看護師)、ソーシャルワーカー、医師などの専門職が常時勤務し、連携しながら利用者に手厚くバックアップしている

を反映して、「在宅介護導入・住宅改造・給食サービス・ヘルパー等のマンパワー教育の強化・リハビリ・補助器具開発」などの福祉サービスの導入と見直しが行なわれた。

一九八〇年代には、スウェーデンと同様、大規模施設型福祉から地域福祉システムに移行したが、受け皿の十分さが課題となった。その後、障がい者の文化活動がさかんとなり、パーソナル・アシスタント制度等の拡充につながっていった。重度心身障がい者の自立生活例としては、車いすの間取りがなされたアパートで暮らすのに、障害者が雇用主となってケア職員を雇用するケースがあるのだ。

にも国における障がい者の所得保障の
ありかが重要になる。



補助器具センター(スウェーデン)
福祉器具を利用者とのディスカッションを重ねて使いやすいものに改善。障害の進行や年齢に応じて修繕や部品の交換を職人の手で行っている。



おしまい

さて、以上が「まじめな」研修報告です。ほんとうは、このほかに魔女の宅急便のモデルになったパン屋さんを探した話や、人魚姫の像、水よりビールのほうが安い話、何よりも好きな電車の話をしたかったのですが、残念ながら紙面の都合でできません。

最後に、この研修の機会を与えてくださったすべての方々と、素敵な全国の仲間にくれぐれ合えたことに感謝して報告を終わらせていただきます。

前回に引き続き、大好評(?) たまみシュランです。
行ってきたのは、「本格手打ちそばが食べられるお店」として6月にオープンしてから老若男女問わず大人気の「おらがそば茶屋」です。
提供されるお蕎麦は、瑞穂野そば打ちクラブ「蕎和会」さんのお力ですべて手打ちです(マジうまい)
店内からそば打ちの様子だって見学できちゃいます。
それでは店内にレッツゴ～

お品書き	
もりそば	五〇〇円
かけそば	大盛り六〇〇円
季節の野菜かき揚げ	大盛り六〇〇円
そばゼリー	一五〇円
玉子焼き・巻きずし	一〇〇円
季節限定メニュー	各五〇円
鳥きのこそば	七〇〇円
温とろろそば	七〇〇円
まいたけ天ぷら	二五〇円
各種ドリンク	一五〇円

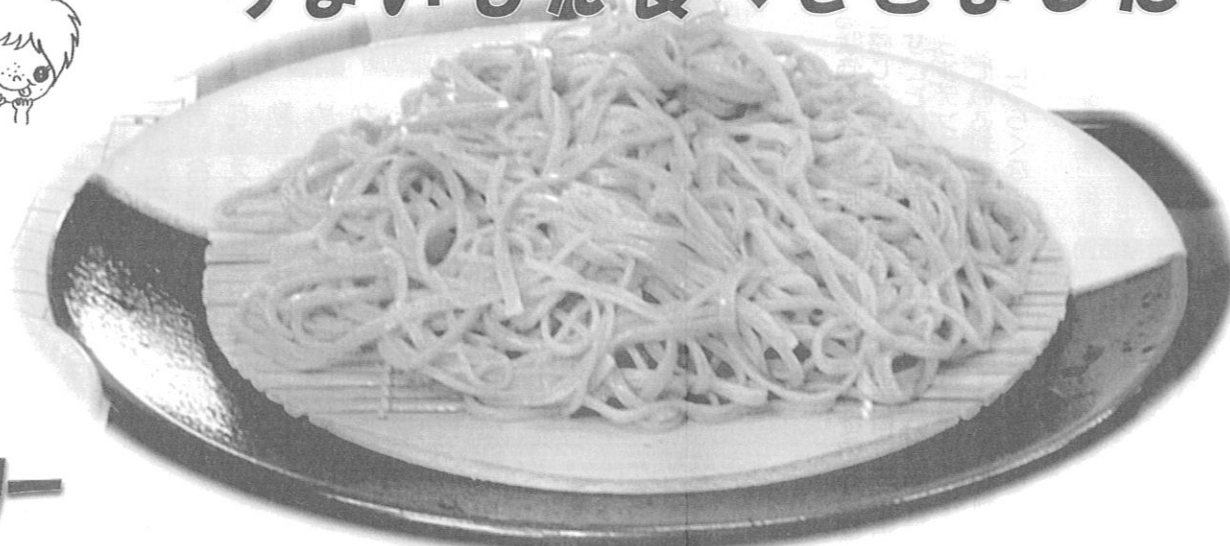
こぶしんぽっ
パンザイ!!

こぶしの会を食べ歩き!



たまみシュラン

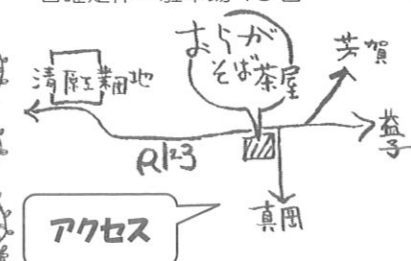
「おらがそば茶屋」で うまいもん食べてきました～



一番人気はやっぱり看板メニューのもりそば。上品な細麺を、辛めのつゆにちょこっとつけて、さっとたぐればさわやかなのどごし。こりゃうまい!!
取材時は北海道幌加内産の新そばがふるまわれていたので香りもとってもよかったです。他にも秋限定メニューや、かきあげ、そばゼリーをレディー3人でたーっぷり堪能してきました。味とサービスは、たまみシュランが保証します! 1度足をお運びください。みなさんの期待は裏切りませんよ。

おらがそば茶屋

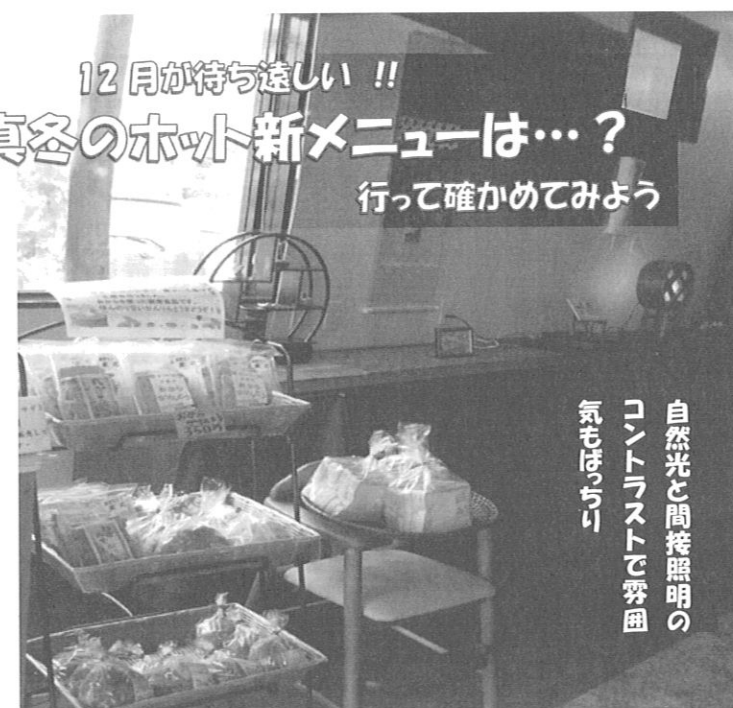
芳賀郡芳賀町大字西水沼 438-2
営業時間 10:00～16:00
おそばの提供は
11:00～14:00
TEL 028-680-5091
Mail oraga@kobusi.or.jp
日曜定休・駐車場 13台



アクセス

- おらがそば茶屋ってどんなところ?
- どんな人が働いているの?
障がいのある仲間8名と職員3名が、役割別のシフト制で週6日働いています。
毎日7～10名が働いています。
 - どんな人が来ているの?
平日は会社員、土・祝日は家族連れのお客様の利用が多いです。
※取材中も女性のお客さまが1名で来店されてました。一人でも入りやすく居心地が良い。
 - 人気のあるメニューは?
もりそばです。
値段も500円とリーズナブルなところも◎
平日はサラリーマンの方でご注文される方が多いとのこと。

12月が待ち遠しい!!
真冬のホット新メニューは...?
行って確かめてみよう



店内ではここにこパン屋さんの手作りパンや様々な土産製品が売っていました。
おすすめは...全部とのことでした(笑)



職人技! 平田稔さん
はたらく姿が素敵です!!



取材同行者の感想と今日の採点です

感想の部屋



同行は上三川ふれあいの家ひまわり地域活動支援センターを利用されている矢野真由美さんと蓮田公愛さんです。

矢野
そばは細く、短いので、汁が飛び散らなくとても食べやすいです。そばゼリーがとてもおいしかったです。

蓮田
普段あまりそばは食べませんが、とてもおいしかったです。家族でも来たいと思います。鳥きのこそばのきのこがとてもおいしかったです。

採点の部屋

星 ★★★★★ 2つ半

・良かったところ

- ◎ お店の雰囲気が良い
- ◎ 料理がおいしい

・改善してほしいところ

- ◎ 日曜日も営業してほしい
- ◎ ご飯もののメニューがほしい

あなたの一筆が、国を、
制度を、暮らしを変えます
国会請願署名の
協力をお願いします
骨格提言の詳しい内容と
国会請願署名についての
お問い合わせは…

きょうされん栃木支部
宇都宮市柳田一四〇一番地
「こぶし」の会 法人本部内
☎〇二八・六二一・三三三・七〇七
fax 六六六・六二二・八

骨格提言には…
障害者権利条約第十九条
で定められている障がい者
が「地域社会で生活する平
等の権利」を具現化するた
めの充実した制度設計や、
障がい者が憲法上保障され
ている基本的人権を他の国
民と同様に享受することが
できるための制度設計な
ど、我が国における今後の
障がい者施策の在り方に
ついて、重要な意味を持つ内
容が盛り込まれています

10.28JDF

創ろう みんなの

参加者感想

○デモ行進で旗が重くて大変だった。でも楽しかった。また参加したいです。(上三川ふれあいの家ひまわり利用者)
○ほくは、デモ行進で先頭になってうれしかった。ほくも署名がんばります。(けやき作業所利用者)
○何か変わるのを待っているだけではダメ。障がいがある人も自立を目指そう。最後の一人になったとしても闘う(第二けやき作業所利用者)
○日比谷に行って、政治家の話を聞いたけれど、ほんとうにわたしたちの事を考えてくれているのか、そして自立支援法が続く限り私の生活は変わらないと思っているひとりです。
○みなさんの主張や考え、悩み等を聴いて、特に工賃を含めた利用者の所得問題がとても切実な問題なのだ、と実感しました。(上三川ふれあいの家ひまわり職員)



わたしたちの声を届けよう!



ボランティアのたのしみ

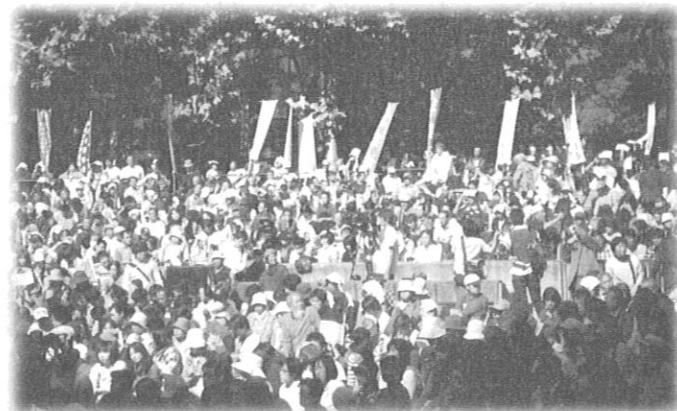
地域の方も大勢訪れてくださり、午前中は会場がいっぱいの人で埋まり、ボランティア「薔和会」の皆さんで作る新そばを堪能し、ジャガバター、フランクフルト、とん汁などに舌鼓をうつていました。ふかしもち(作業所南側の畑地に仲間・家族会の皆さんで育ててきた収穫物、ポツポツ、ワタガシは感謝をこめて無料。

十一時からこれもボランティア出演の「ワイフ」(風という意味だそうです。)のケイナ・南米のフォルクローレの演奏、午後からは、障がい者とそのお母さんたちで創る「ドレミファクラブ」の演奏があつて、大いに盛り上がりました。また、会場のあちこちで栃木県シルバード大学の現役・卒業生の皆さん、マロ二工医療福祉専門学校の学生さんなど大勢のボランティアの皆さまのお手伝いをいただきました。ほんとうにありがとうございました。

来年はこぶしまついで

最後は、家族会会長と畠山利用者自治会長のシメと万歳三唱。参加者一堂のやっつけよかったなという笑顔が感じられました。来年は「こぶしまつり」としてやっていくことをみんなで確認しました。

こぶし作業所 増田



日本の障がい者
制度を世界の
水準に!

大フォーラム

障害者総合福祉法を!

政治家はほんとうにわたしたちのことを考えてくれているのか? 何か変わるのを待っているだけではダメだ!
十月二十八日(金)大型バス一台をチャーターし、きょうされん栃木支部の四十六名(こぶしの会からは二十一名)が日比谷野外音楽堂(東京)に集い、10・28JDF大フォーラムに参加しました。全体で一万を超える参加者がありました。
最初に、主催者「日本障害フォーラム(JDF)」小川第一代表の開会あいさつがあり、その中で東日本大震災で犠牲になった多くのなかまに参加者一同で黙祷を捧げました。
今年のテーマは、「創ろう みんなの障害者総合福祉法を!」障害者総合福祉法の骨格提言に関する総合福祉部会の特別報告や、各団体からの発言が行われました。私たちは、この骨格提言に基づいた障害者総合福祉法の制定と必要な予算の確保を訴えて署名活動を行い国会請願等の活動をしていかなければならないことを改めて感じました。最後に、日比谷公会堂前から東京駅方面にデモ行進を行い、一人でも多くの人に障がいのある人たちの現状を理解して頂きたい気持ちで、シュプレヒコールにも力が入りました。

告 チャレンジセンター
●小林勇次



こぶし作業所 一周年記念感謝祭

平成二十二年四月に「こぶし作業所」が雀宮地区茂原町に新築・移転してから一年六か月がたちました。新しく始まったパン・弁当事業も、順調に売り上げを伸ばしてきました。そこで、家族会と後援会と作業所が一緒になって、十月二十九日に「こぶし作業所一周年記念感謝祭」を開催することになりました。

力を合わせて作りました

企画段階からあとかたづけまで、家族会の皆さんが大きな力(ほほすべて)を発揮してくださいましたが、仲間も利用者自治会が中心になって、食券の作成やイベントの担当など、それぞれの役割を果たしました。

感謝祭スタート!

当日は十時から藤田理事長の主催者挨拶に続いて、谷博之参議院議員(こぶし後援会長)、湯沢雀宮地区市民センター所長、篠原茂原東自治会長、三村雀宮地区老人クラブ連合会長などの来賓祝辞、共催者の鬼頭家族会会長からの挨拶を頂いて、感謝祭はスタート。

